

東京三高会だより

第26号

平成21年6月1日発行

# 三木野々原

東京三高会

青森県立  
三本木高等学校  
同窓会東京支部

発行責任者 佐々木文雄/事務局 〒181-0001 東京都三鷹市井の頭 3-21-13 田制則子方 Tel&Fax 0422-43-7763 編集責任者 佐藤文哉

東京三高会の皆さん、お元気ですか？ 来たる7月5日(日)の総会で、ぜひお会いしましょう。発足から31年目のスタートとなる今年、親睦の輪がさらに広がるよう願って、会報をリニューアルしました。皆さんの近況やご意見を、ぜひお寄せください。

## 会長メッセージ

長谷川新校長をお迎えする  
第三十一回「東京三高会」に寄せて――

## 一生懸命働くことの意味

会長 佐々木文雄（S36年卒）



アメリカに端を発した金融危機が全世界に波及し、未曾有の経済危機を招いています。

今、「道しるべのない時代」と言われています。少子高齢化や人口減少、地球環境問題など過去に経験したことがない事態に直面し、人々の価値観そのものが、大きく揺らいでいます。人生の中でもっとも多く時間を費やす「働く」ことに関する考え、仕事に対する心構えの変化も、その一つなのかも……。

「なぜ働くのか」「何のために働くのか」。若い人たちの間で、労働を嫌い、できるだけ回避しよう

とする傾向が顕著になっていきます。「一生懸命働く」「必死に仕事をする」といったことを意味がないとか、格好悪いと冷笑する人さえ少なくありません。一方で、働くことを怖がる傾向も見られます。社会へ出て働くことは、自分の人間性を剥奪されてしまう苦役ではない。だから就職もせず、親の庇護のもと、ぶらぶらと過ごす。さもなければ目的もなく、アルバイトで食いつなぎながらイヤイヤ働く。ニートやフリーターなどの増加は、考え、心構えの変化がもたらした、必然的な結果と言えるかもしれません。私は青森県十和田市で生まれ育ちましたが、今から五十年以上前の中学、高校男子は（すべてではないが）自宅のトイレのくみとりをしたものです。今でいう有機農法だ！「オケ」に入れて「リヤカー」で運び「ヒシヤク」で少しづつ

つまいて作物を作る。キャベツにつく虫は「ハシ」と手で取り駆除。つらいと思ったことはなかった。どこの家でもやっていたよ！

ある本に「働くことは万病に効く薬」あらゆる試練を克服し、人生を好転させていくことが出来る「妙薬」と書いていた。まさにその通りだ！……と、この年になつてつくづく思うのです。

\*

第三十一回「東京三高会」総会・懇親会は七月五日(日)秋葉原

米田校長先生、定年ご退職。長谷川校長が赴任されました

## 校長メッセージ

## 中高一貫教育 スタートから三年目に 大きな期待

校長 長谷川光治

東京三高会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し、多大な御支援と御協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。また、それぞれ分野において御活躍のこととお喜びを申し上げます。

定年退職された米田省三校長の後任として、今春の異動により大湊高校から赴任してまいりました。さて、今年度は併設型中高一貫

「肉の万世」にて開催致します。

今回の特別招待恩師は米田省三先生です。皆さんがよくご存じの前校長です。先生は昭和五十八年から平成五年までの十年間、教鞭を執っておられました。米田省三先生、長谷川光治新校長をお迎えして母校のお話を聞きながら、久しぶりに会う同窓の皆様と共に楽しむ一刻を持ちたいものです。若い人たちを含め、多数のご参加をお待ちして居ります。(※文中のある本とは、『働き方』稲盛和夫 三笠書房)



校として三年目を迎え、中学一年生から高校三年生までの六学年揃ってのスタートとなりました。年齢の離れたもの同士が、お互いを思いやり尊重しあつて生活し、他者を理解する心を深め、協調性や社会性を高め、より豊かな人間性を養うことは、「真の国際人として未来社会の進展に貢献できる人材を育てる」ことを目指す中高一貫教育の根底であり、本校で学

ぶ生徒の人格形成に大きな期待がもたれるものです。

特色ある学校活動として今年度より、林野庁三八上北森林管理署と協定を結び、また、保護者、関係機関からの御協力のもと、「三本木 夢と生命の森」と名付けた、奥入瀬パイパス沿いの国有林五・七五ヘクタールにおいて、林業体験、森林教室、トレッキングなどの体験学習を通し、生命と環境について学ぶ、森林環境学を立ち上げました。

もう一つの大きな変化は、昭和四八年に開設した理数科が来年度より募集停止となることです。理数科は、本校が県内有数の進学実績を誇る現在に至る原動力となるものでしたが、志願者の減少は、今年度の進学状況に示される、高い進学率（平成二十一年三月卒業生八六・三％）や、東北大医学部

現役合格をはじめとした難関大学合格の進学実績から、より可能性の多い普通科志向の増加につながった、現れかと考えます。

日々の勉強とともに生徒は、部活動においてもよくがんばっております。女子サッカー部は平成二十年度高総体に続き新人戦でも優勝を果たし、陸上競技、少林寺拳法、空手道、なぎなた部が東北大会出場的好成绩をあげております。

時代と社会の変化に対応し、生徒、保護者、地域の要望に応えるために、高校教育改革が進められていますが、「文武両道」を校是とする、先輩諸氏の作られてきた三本の伝統は不変のものです。今後とも本校発展のために、御指導、御支援をお願いいたします。

特別招待恩師

三月で定年退職された米田省三先生



「三本木夢と生命の森」づくり

この三月三十一日をもって三十二年間の教員生活を定年退職し、もったサンデー毎日の身分ですが、このたび、早くも「恩師として寄稿いただきたい」とのごとでございましたので、東京三高会の皆様に対する感謝の気持ちを少しでもお伝えできればと、筆を執らせていただくことにしました。

私が、教諭として三本木高校に第一回目の勤務を致しましたのは、昭和五十八年四月から平成五年三月までの十年間でありました。この時期、三本木高校は大学進学において実績が急速に伸び、先生方には勢いがあり、競ってアイデアを出し合い、まさに内部からわき起こった変革の時期であったような気がいたします。私自身、この十年間は主に学級担任として活

動の場を与えられました。生徒と苦楽をともにしながら、本当に教師としての喜びを感じることができました。

二回目の勤務は、平成十四年から、一年間教頭を務め、翌十五年からは校長として六年間在職となったわけでありました。時代はちょうど、外からの変革の時期であり、自らの発想の転換をはかり、それを学校運営に生かしていかねばなりません。本校における最も大きな変革の一つは中高一貫校への転換であり、国県の施策の一環として行われたものであります。同窓生の皆様方のご理解がなければ実現できなかったものと思っております。

さて、同窓会とのかかわり而言え、何と云っても創立八十周年を同窓生の皆様方と迎えることができましたということでもあります。そして、その記念講演会を小柴昌俊先生を本校にお招きしての講演会も、私にとりましては忘れがたいものでございます。まだまだ個々のお名前を挙げてお礼を申し上げます。たい方はたくさんいらっしゃいます。

退職するにあたりまして、実は置きみやげをしてまいりました。それは何かというと、同窓会本部坂田副会長の奔走により、国有林約6ヘクタールを借りて、森林を活用した教育活動を行うことといたしました。今年は、手始めに1ヘクタールにブナを植林することとしておりますが、まさに、五十年、百年先を見据えての活動であります。奥入瀬溪流の近くでございますので、十和田にお出での際は是非お立ち寄りいただき、憩いの場、癒しの場としてご利用いただければと思います。森の名前は、「三本木 夢と生命の森」。森の育成のためには、同窓会の皆様方から様々な形でご支援いただくことになるかと思っております。よろしくお祈りいたします。

最後になりましたが、六年間、欠かすことなくこの会に参加できたことを、本当に楽しい思い出として忘れることができません。今後の会の益々の発展と、会員の皆様方のご健勝をお祈り致します。



新市長メッセージ

「ふるさと力」で元氣な十和田市づくり

十和田市長 小山田 久 (S40年卒)



東京三高会の皆様におかれましてはご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。

私は、昭和四十年に三本木高校を卒業し、地元大学を経て青森県に勤め、退職後の本年一月三十

日に十和田市長に就任いたしました。首都圏で活躍の会員の皆様には何かとご支援を賜りますようにはよろしくお願いいたします。

さて、米田先生に端を発した世界的な金融危機、経済不況の中で、平

成二十一年度がスタートいたしました。本市においても市税収入の減少等により財政支出の伸びが期待できない中で、産業振興や雇用問題、商店街活性化など本市が抱える様々な課題に対処し、十和田市が発展していくための原動力となるのは郷土を愛する市民の「ふるさと力」であると確信しております。

このため市政運営に当たっては、市民目線による信頼される政治姿勢を基本に市民の皆様とともに「元氣な十和田市づくり」に全

力を尽くしてまいります。

せつかくの機会ですので、最近の市の取組みの一端をご紹介します。

まず、かつてのような賑わいが少なくなった中心市街地の活性化についてですが、商業機能の充実や都市の魅力再生を図るため、本年十二月までに「中心市街地活性化基本計画」を策定し、同計画に基づき事業の実現に取り組むほか、この四月には中心市街地の活性化を實踐・支援する「株まちづくり十和田」を設立し、商店街や民

校歌誕生の思い出

水越郁子 (S26年卒)



「」の女学校の校歌では、男子生徒も入学してきた現状にふさわし

からぬという訳で、新校歌を作ろうということになり、その依頼状を当時生徒会長であった私に書けということになったのです。

ラブレターさえ書いたことのない私に、どうしてあのような立派

佐藤春夫氏に校歌作詞のお願い

藤春夫氏に校歌作詞のお願いに行つた時の思い出を書いて欲しいとお便りをいただき、真つ先に思い出したのは旧校舎の講堂前の宿直室にあつた囲炉裏の赤々と燃える炭火のことでした。

終戦後の学制改革のもと、「すずらん香る：」の女

校の校歌では、男子生徒も入学してきた現状にふさわしからぬという訳で、新校歌を作ろうということになり、その依頼状を当時生徒会長であった私に書けということになったのです。

ラブレターさえ書いたことのない私に、どうしてあのような立派

な先生に手紙が書けようかと、囲炉裏にあたりながら悩んだのでした。

どなたか前にお願ひにいらしたかどうかは存じませんが、私の記憶では当時の佐藤勇介校長と私が佐藤春夫氏のお宅へ伺つたのが初めてではなかつたかと思ひます。写真で拝見すると、佐藤先生はきびしいお顔つきですが、お会いした時は温顔の優しい印象でした。快く迎えていただき、絨毯を敷きつめた中国風のお部屋で、校長はタンとお酒をちよつだいで、酔つ払つてしまわれました。帰りの佐藤宅からの坂道は「良かったなあ」と二人で大喜びして歩き、その後で、作曲者の大中原二先生のお宅にも伺いました。大中原先生は長谷川先生の音楽学校の恩師でした。

昭和二十六年六月三十日の校歌発表会に佐藤ご夫妻が三高にお出でに

なり、十和田湖へご案内した時もお便りをして、ご満足いただきました。

確か郡川優子さん(現・鎮目 S27年卒)が佐藤氏の似顔絵を描き、「うーん、よく似てるなあ」とご本人からほめてもらったことも覚えております。

思えば遠い遠い昔のことになりました。校舎も変わり、当時を偲ぶものは校歌のみとなってしまい、寂しいかぎりですが、はるか八甲田連峰を望みながら学んだ三本木高校を忘れることはありません。

間企業の活動や事業を支援していくことになっていきます。

また、来年十二月の東北新幹線の全線開業を控え、この二月に「新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏整備計画」を国に提出しており、農業など地域資源を活用したサービス開発、新たな観光ルートや観光情報提供の充実強化などにより周遊型、滞在型観光の推進に取り組んでいくことにしています。

子供や高齢者を事故や怪我から守り、安心・安全なまちづくりを進めるため、WHOのセーフコミュニティ認定都市として本年八月頃の認定取得(全国で二番目)を目指し、行政や団体、ボランティアと協働で取り組んでいます。

また、昨年五月に新たにオープンした市立中央病院ですが、医師不足もあり、厳しい運営となっていることから、病院運営の健全化を最大の課題として、医師確保に努めています。

その他当市の得意分野でもある農業振興などもあります。何れにしても「将来にわたり不安なく、安全に暮らせる町」、「子供たちも故郷に住みたいと思えるまち」を目指し邁進してまいります。このため、会員の皆様におかれましては企業誘致や医師確保に関する情報提供などについてのご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 最近の二本木

十和田商工会議所会頭 石川正憲(S41年卒)



私は昭和四十一年三本木高校を卒業し、現在(財)青森県立三本木高等学校・附属中学校後援会理事長を務めながら、平成十八年一月より十和田商工会議所会頭を務めております。常日頃より東京三高会の皆様方の多方面における活躍を、郷土の誇りと感じ大変嬉しく思っております。

また、三十一年もの長きにわたる会を継続している事にも尊敬の念を持ち、これからも続けて戴くことをご期待申し上げます。

「灯ろう流し」の復活  
さて、昨年十和田市のルートと言っても良い稲生川で「灯ろう流し」を復活致しました。これは護岸工事の為中断となり、諸般の事情により完了後も再開しなかった訳ですが、関係機関の暖かい協力により、実に三十六年ぶりに稲生川上水一五〇周年を記念して開催に漕ぎ着けました。これが反響を呼び多くの市民で賑わい、見学者や参加者からは、終了後も継続の声が多く聞かれるなど大変好評でした。そこで今後も毎年八月十六

日に継続して実施したいと考えておりますので、会員の皆様も里帰りの際には是非ご参加下さい。官庁街通りでの多様な市民イベント開催

当市の中心部には、「日本の道百選」・「日本街路樹一〇〇選」や「新日本一〇〇景」にも選ばれた、美しい松と桜の並木の「官庁街通り」(駒街道)がある事はご存じでしょうか、そこは昔に比べ春夏秋冬を通して多くのイベントが開催されております。中でも「春の花見」や「とわだYosakoi夢まつり」、「花火大会」、「秋まつり」には大変な人出で賑わい、こんなに十和田に人が住んでいるのかと思うぐらいの人通りになります。それは日曜日の新宿ぐらいの人出と思っして下さい。歩道には馬の産地として栄えた十和田市らしく、馬にちなんだ沢山のオブジェが置かれ作品には自由に触れる事ができます。

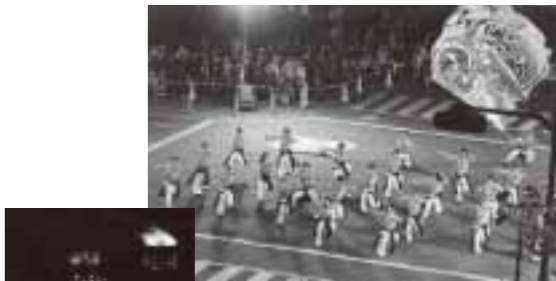
「十和田市現代美術館」二年度「アートの街」作り順調  
官庁街通りに昨年「十和田市現代美術館」がオープンし市内外から

ら沢山の方が訪れ嬉しい誤算となっております。これらの一連の作品やイベントは野外芸術文化ゾーンとして官庁街通りという野外空間を舞台に、通り全体をひとつの美術館に見立て、多様なアート作品を展開していくもので、現在も工事は順調に進められており十和田市を個性あふれる「アートの街」として国内外の多くの人たちに印象づけることを目指しています。

中心市街地活性化についても、「株」まちづくり十和田」を立ち上げ、以前のような活気溢れる姿まで取り戻すことは無理にしても、今の時代に叶った活気ある「まち」を取り戻したいと考えております。

東北新幹線全線開業  
十和田市の資源活用機会に  
さらに、平成二十二年十二月には東北新幹線が全線開業致し、この新幹線全線開業効果の活用促進を図るため、十和田市のたくさんの資源(食材)を大いに活用したり、十和田湖、奥入瀬、八甲田など他の都市には類を見ない大自然のPRをしながら、このチャンスを生かせるように取り組みたいと思っております。

結びとなりますが、東京三高会の皆様のご多幸と、益々のご活躍・ご健勝を心から祈念申し上げます。



上 官庁街通りの新名所「十和田市現代美術館」中 若者のエネルギーにあふれた「とわだYosakoi夢まつり」下 36年ぶりに復活された稲生川の「灯ろう流し」

## 世界に誇れる 観光都市 「十和田」への思い

川原 淳(S55年卒)  
ITコーディネータ

高校を卒業して、早いものでもう三十年近く経ちます。とは言っても、毎年帰省していますので十和田の変化は知っていますつもりです。

十和田湖町との合併、昔は無かったお祭り(桜流馬やとわだYosakoi夢まつり)の開催、官庁街は「駒街道」として整備さ

れ、駒っこランドに「鯉ヶ郷」(実は私の親戚が経営しております)と、観光スポットも増えました。そして、なんと言っても昨年オープンした「十和田市現代美術館」。箱物だとして批判的な方もいるらしいですが、美術好きの私としては、非常に質の高い現代美術館ができたことと喜んでおります。実は現代美術館というものが日本では少ないのです。このようないない施設が十和田市にできたのは、多くの方々のご尽力があったからでしょう。そう、昔は観光地としては極めて貧弱だった十和田市が、本格的な観光都市に生まれ変わる兆しが見えてきたように思えます。

## 発足、第30回記念「東京三高会」 総会・懇親会を盛大に開催

二〇〇八年は同窓会に関連し、三つの節目がありました。東京三高会が発足三十周年を迎え、当会誌「三木野ヶ原」は二十五号目の発行を、そして母校では同窓会本部設立六十周年を迎えました。周年記念を無事に迎えた同窓会として、双方ともに新しい歩みがこれからも続きます。



同窓の若い音楽家たちの美しい演奏でオープンした、第30回記念「東京三高会」懇親会。会の創設にご苦労くださった先輩、あとに続く後輩がともに集う和やかな会場でした。

二〇〇八年七月六日、グラランドプリンスホテル赤坂では、第30回記念東京三高会総会・懇親会が学校長、恩師、来賓を迎え多数の出席のもと賑々しく執り行なわれました。それぞれのご挨拶、乾杯のあと、今回の目玉、ミニコンサートの始まりです。同窓のファゴット奏者の前田正志さん(S49年卒)、フルート奏者の鳥谷部良子さん(S57年卒)、ソプラノ歌手の多田順子さん(S68年卒)、若々しいテノールで今回も盛り上げてくれた会長の甥御さんの滝沢健作さん、プロで活躍されている皆さんです。そのお友達にも出演していただき、生歌、生演奏に会場は一時陶酔境に。場所を替えた二次会も大変盛り上がりしました。

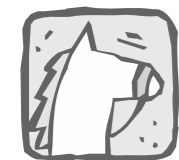
(下山雅章 記)



休日をお子さん達と楽しむ川原さん

世界的にみても観光産業というのはかなりの巨大産業です。全世界の雇用者の約九%、約六十兆円という規模の産業で、しかも東アジアの成長率が高いそうです。高校を卒業して十和田市を離れ、東京のIT産業に勤めている人間が十和田の観光産業に対してモノ申すのは可笑しい話なのですが、それだけ恵まれた状況に十和田市があるという事が(離れて暮らしている私には)大変頼もしく、そして嬉しいのです。

では十和田市の未来は明るいのでしょうか。残念ながら観光地としては若干不足しているものが



十和田市情報も満載の川原さんのブログ  
http://ameblo.jp/atsushi-kawahara/



八甲田の美しさを存分に紹介したカレンダー「原生の鼓動」より岩木さんのサイト <http://iwakino.com/> で、ぜひご覧ください!

「もちろんです。岩木さんの好きなように撮ってください。」  
 二〇〇七年三月、キヤノン本社二十四階の会議室。これが、キヤノンカレンダー作家に指名された時の僕とキヤノン役員とのやりとりでした。それから一年間の格闘。その一年の間に僕は季節ごとに八甲田に入山して単独野営を重ねて撮影した日数は一〇〇日を超えました。

無事撮り終えて完成した二〇〇九年版キヤノンカレンダーは現在、二十四万部印刷されて全国で配布されています。おかげさまで全国カレンダー展において全国印刷産業連合会会長賞も受賞しました。カレンダー作品写真展「原生の鼓動」の全国巡回も銀座から始まって、梅田、仙台、名古屋、福岡、

札幌と続きました。感慨無量です。二十四万部ですから、全国の会社や家庭で、何百万の人が八甲田の写真をこの一年間眺めるわけです。「こんな素晴らしい自然が、青森県の十和田や八甲田に残っているんだな」と多くの人が見つめてくれる。(実際僕は、展覧会の会場で多くの来場者からそういう声をかけていただきました)

素晴らしいのは僕ではなくて、八甲田という自然、とりわけ南八甲田に色濃く残る原生の自然なのです。残念に思うのは、この素晴らしい自然遺産の価値を地元の人たちは、ほんとのところで理解していないことです。それは伝える側、写真家の側にも責任がある。十和

田・八甲田と言えば、十和田湖・奥入瀬だったり北八甲田の周辺だけだったりしたわけです。だけどこの地のほとんどの素晴らしさは、日本の中で(いや世界の中で)言ってもいい)、サンクチュアリのように残された南八甲田の奥深い原生の自然にこそあるのです。だからこそ僕は、奥深い原生の只中で、たったひとりでテントを張り、探し続けました。十年撮り続けて去年は一〇〇日も入山したけれど、



### 夏公開、大作映画『MW—ムウ—』

松橋真三(S63年卒) 映画プロデューサー

初めて寄稿いたします。私は大学卒業後WOWOに入社しまして、映画、ドラマのプロデュースを仕事にしてきました。2000年に、映画「バトル・ロワイアル」(深作欣二監督/藤原達也主演/東映配給)を共同プロデュースした以降独立し、スタジオスワンという会社を設立。2006年に映画「ただ、君を愛してる」(新城毅彦監督/玉木宏・宮崎あおい主演/東映配給)等のヒットに恵まれ、現在は会社を合併し、IMJエンタテインメントにて取締役兼スタジオスワン・レーベルプレジデントとして、引き続き映画制作事業を手掛けております。

この夏7月4日に公開される映画「MW—ムウ—」は、手塚治虫先生原作のマンガが原作で、生誕80周年のこの年に目玉として制作した娯楽大作です。監督はドラマ「女王の教室」の岩本仁志監督。主演は、何となく私の作品にご出演頂いている玉木宏さん。その他に、「電車男」の山田孝之さん、石田ゆり子さん、石橋凌さんなど豪華キャストです。昨年の4月から6月まで、東京近郊、及びタイでの撮影を敢行し、年明け



MW—ムウ— 松橋真三 監督 手塚治虫 原作の映画制作

に無事完成。この夏公開の話題作として、これからの宣伝活動をご覧になると思います。また、これから先にも様々な映画のビッグプロジェクトが控えておりますので、ご期待ください。情報を解禁できるようにになりましたら皆様にもご案内させていただきます。高校時代から「夢は映画監督」でした。最終的にはプロデューサーとして夢をかなえることができ、今もひたすら東京で頑張っています。「夢は、ずっと信じ続けて、努力した者が手に入れるもの」と思っています。私よりも若い後輩のみなさんにもこの思いを持って、夢にチャレンジしていただきたいと願いながら、今後ともご指導ご鞭撻、そして応援よろしく願っています。

### 「おくりびと」など、映画音楽に参加

前田正志(S49年卒) ファゴット奏者



のでして。それでも映画を観た友人が(テロップに演奏者の名前が載っていたとかで)おめでとう!と言ってくれました。その後いくつかの良い作品に恵まれ、この一年位の間「ラストゲーム」最後の早慶戦、「誰も守ってくれない」、「252:生存者あり」などといった映画音楽に関わりました。もうひとつの私の仕事の柱ともいえるのが「オペラシアター」に参加する事です。今年四月から十二月にかけて日本語によるオリジナルオペラの公演で国内外を巡ります。どこまで行けるか判りませんが、目の前の一つ一つの演奏機会を大事にし、まだまだ成長するために何が出来るかと考えています。写真 オペラ「フィガロの結婚」演奏時の扮装の前田さん

昨年、東三高会第30回懇親会の席では、仲間と共に皆様の前で初めて演奏をお披露目出来たこと、大変感謝しております。現在はフリーのファゴット奏者として演奏活動を続けております。オーケストラや室内楽での演奏が主な活動の場となりますが、時にスタジオでのテレビや映画音楽の録音にも携わることがあります。二〇〇七年七月二十一日は千駄ヶ谷に近い「ビクター」のスタジオで録音の仕事をしていました。スタジオ内は十二人位のチェロ奏者たちと木管楽器のフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットそれぞれ一名。指揮は久石譲。終了後に聞いた映画の題名は「おくりびと」というものでした。一年半後には米アカデミー賞外国語映画賞受賞でこんなに有名になるとは!しかし私がこの映画に関わったのはこの時だけで、何か恩恵を受けたとか授賞式にくっついていったとか、そんな事は全然ない

### 希有な自然、美しき南八甲田

岩木 登(S46年卒) 写真家



「全部の写真を十和田・八甲田で通していいですか?」

### 美しい、道草。



坂田俊英(S55年卒) マーケティング企画ライター

わたしは三本木高校、空手部卒業生である。厳密には、普通科卒業なのだが、何か最近、空手部卒業、という気がする。しかも、空手部道ではなく、空手部なのである。空手部。その、道、にこだわる時期もあった。が、最近、空の手は空手でいいな、と思う。空の手から、何かをつかむような。あの頃の私の空手。それは道なんてものじゃなかった。道草、というか、土手歩きというか、そんな不細工な空手。まさに道にならぬ、道草空手。

立ち止まったまま、私たちの心は首を傾げる。ロマンチックって、どういうことさ? 武道に浪漫なから腑には落ちるが、さながら夜更けの歌謡曲。などと、練習後に椰揄したもの。その先生の指導のレトリックは、こんな活用だった。ロマンチックに。ドラマチックに。且つ、劇的に。そして、美しく。そんな美辞に彩られながらも、師の教える稽古はいたって地味だった。技も、立ち方も、動作も、無駄なものは一切殺がれて。移り気な私は、使い物にならぬ補欠選手だった。一度投げ出して、恋愛道に挑んだら、思いきり相手

だった。その後、三高空手部は、師の指導の下に強豪選手を次々と輩出し、一つの栄光の時代を築くことになる。三高を卒業して上京、十数年後の三十代後半、里心がついてきた私は、故郷に関する文献を読み始める。ある日、「司馬遼太郎氏の紀行文集「街道を行く」第三巻「陸奥のみち」」を手にとり驚く。八戸の著名な歴史家の子息として、我が空手の師匠、小井川年夫先生の名前が、執筆当時の若き学生として司馬遼太郎氏に、さも親しみて深く語られているではないか。師の教えの源泉を知るようで、故郷、母校、そして三高空手部への誇りが一気に全身に充滿した。その時

設四期目と若かった。歴史も伝統も、実績もなかった分、夢と野望ばかりが満ち溢れていた。あたかも三本野ヶ原の原野を開墾するよな、開拓魂。と、いえば、かつてはいいが、ただ強くなりた、という若者の未熟な野望がときめき、時にくすぶる。そんな若き道草は、不思議な顧問の先生により、ひとつの豊穣に導かれる。汗と唾が飛び交い、拳と蹴りが交錯する稽古では、時として、感情が荒く張り裂ける瞬間がある。それが垣間見えるや先生は稽古を止め、いつもこんな言葉を発した。もっと、ロマンチックに。

に振り倒された。そのショックを払拭せんがため、ようやく空手の稽古に没頭する。痛んだ胸に、ロマンチックとドラマチックという師の言葉を刻みながら、へたくすな突きを突き、空を蹴りつけた。生き方も、運動も、恋愛も、学問も全部ダメな私は、一点集中しかないと考えた。一つの技だけを磨き、一つの技だけの試合方法に決めた。万年補欠、天下無名、技も一つだけの変なスタイルの私は、運良く県大会を個人戦で準優勝になった。同時に団体も同様準優勝。つい昨日までの万年一回戦敗退校には、まさに夢のような成果

の感動が、故郷への愛着と憧憬に生きようという、その後の人生の行くべき道筋を決定した。その小井川先生も、今は十和田西高校で教鞭をとり、来年には引退と聞く。さあ、もう一丁、教えを請いに訪ねてみようか、と思っ。新たな人生のはじまりに向けて。そんな思い出が軸となる、私の三本木高校のイメージは、実にロマンチックで、ドラマチックで、劇的で、そして美しく豊穣なる道草なのである。

このときは、私のブログにて、「RE BOXING」で検索してください。

三高の今

工藤亨一教諭(50年卒)

【トピックス】

その1 平成二十年度 第六十一回 青森県高等学校総合体育大会 優勝 女子サッカー部 その他、各部とも好成績をあげている。

その2 三本木高校附属中学校と林野庁三八上北森林管理署が「遊々の森」協定調印。国有林を利用した林業体験、環境学習を通じての人格形成や知識の取得をする。
その3 本校同窓会では附属中の森作りを通しての環境学習を支援するため、「三本木 夢と生命の森基金」の口座を用意し、寄付を募る予定。一口一、〇〇〇円(ブナ苗木一本二〇〇円×五本分)



後輩たちが学ぶ、三本木高校校舎と中高一貫校の証し、附属中学校の正門

【三本木高校の生徒数と進学状況】

平成20年度 卒業生

Table with 5 columns: Category, Gender, Count. Rows for 全日制 (普通科, 理数科) and 計.

平成20年度 進学状況 (複数校の合格者数含む)

Table with 5 columns: University Type, Sub-type, Count. Rows for 国公立大学 (国立大, 公立大), 私立大学 (国立, 私立), 小計, and 計.

4年制大学進学者 234人 84.5%
進学者数 239人
進学率 86.3%(歴代1位)

平成21年度 生徒在籍数(入学者数)

Table with 5 columns: Course, Grade, Count. Rows for 普通科, 理数科, 計, and クラス数.

Table with 5 columns: Grade, Count. Rows for 附中1年, 附中2年, 附中3年, 計, and クラス数.

三本木高校のホームページをぜひご覧ください。
http://www.asn.ed.jp
(青森県教育ネットワーク)からも入れます。
母校の状況、同窓会情報などいろいろ検索できます。



■東京三高会役員

(任期:平成19年7月~平成21年7月総会まで)

- 名誉会長 下佐 剛士 (S28)
相談役 佐藤 中 (S32)
野呂 義春 (S32)
阿部 光成 (S28)
今 久子 (S28)
前川 十志雄 (S31)
村中 弘 (S32)
会長 佐々木 文雄 (S36)
副会長 野口 宥子 (S30)
富田 俊一 (S43)
下山 雅章 (S33)
佐々木 賢明 (S40)
理事 佐藤 清志 (S34)
北川 和子 (S30)
漆畑 満 (S34)
高松 重光 (S36)
蛭名 千賀 (S37)
三浦 景子 (S38)
長谷 朋子 (S38)
馬場 洋子 (S38)
佐藤 文哉 (S41)
望月 福子 (S42)
岸 綾子 (S46)
五十嵐 明子 (S31)
佐々木 裕 (S38)
高谷 隆二 (S40)
瀬戸口 玲子 (S41)
高見 政良 (S42)
前田 正志 (S49)
坂田 俊英 (S55)
多田 順子 (S63)
会計 藤本 モミ (S29)
田制 則子 (S37)
高坂 忠 (S37)
監査 堰野端富志男 (S38)
清水 栄子 (S40)
顧問 苦米地 俊乘 (S32)
同窓会本部長

東京三高会事務局より

平成二十年十月から、編集責任者が佐藤文哉さん(S41年卒)に、事務局担当が田制則子さん(S37年卒)に替わりました。前任の下山雅章さん、北川和子さん、本当にお疲れ様でした。編集後記に代えて、お二人からひと言を。

【前編集責任者 下山雅章さん】
【思えば速く】
十年前、



何の因果か知らないうちに編集責任者に指名、困ったなあと思ったものでした。前任との引継ぎも無く、新聞作成の経験も無く、原稿依頼者のコネも無く、無い無い尽くしからのスタートでしたが、貧すれば鈍する、クリアしなければ前進無しで、何とか第十八号から第二十五号まで投稿者のご協力で発行することが出来ました。この辺で新しい風になるのも必要では? ということで編集作業を交替することに。今度のブンヤさんはスパーマンです。佐藤文哉さん、あだ名風に読んでブンヤさん。仕事は、今都内を中心に広く展開しているスパーマーケットに勤務しています。今号からすでにこんな編集が出来、こんな立派な二十六号が皆さんのお手元に。これってアップレ!(S33年卒)

【前事務局 北川和子さん】
私は、東京三高会に第三回目になりました。三本木高校卒業以

